

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和7年2月6日

事業所名 しあわせ駅 松本

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		学習室用の机を配置、ジョイコンマットの活用等工夫して安全に過ごせるように配慮している。	
	2	職員の配置数は適切である	8		職員の配置基準を満たし、かつ、児童指導員も常に確保できている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		机や本棚の配置を工夫し、視覚優位で写真やイラストを使い、子ども達にわかりやすく案内している。フロア全体は、ほとんど段差がなく、一般的なバリアフリー化がなされている。敢えて段差を一部残す事で、社会生活において「段差の乗り越え方」の意識づけを行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		空気清浄機等を設置し、毎日の掃除やアルコール消毒を行い、常に清潔に保てるよう職員一同取り組んでいる。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		業務改善のためのミーティングを随時行っているが、今後さらに明確な目標設定と振り返りを強化していく。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		保護者のご意見を積極的に取り入れ、さらに業務改善ができるように努めている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		自己評価の内容は、毎年しあわせ駅のホームページで公表している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		8		今後、導入を検討中
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		本社にて研修を行っている。また、本社主導により、テーマを決めて、各事業所においても全職員参加の研修を実施している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		職員全員でミーティング等で確認、作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		個々に合わせたアセスメントツールを使用しているが、今後も随時見直しを図っていく。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8		自発管を中心に、基本的なガイドラインに沿って、職員全員でそれぞれの子どもの支援に必要な項目を適切に選択・検討し、具体的な支援内容を設定し、「個別支援計画書」として保護者に提示している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		職員全員で支援計画書を読み合わせ、ニーズ・課題を確認して、それぞれに必要な支援を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		活動プログラムの立案は、全職員の意見を必ず取り入れるようにミーティングを組んでいる。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		全職員がの意見を取り入れる事で、支援内容がマンネリ化しないように気を付けながら、活動プログラムを作成している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8		職員全員で随時ミーティングしながら、児童一人一人の状況・特性を把握できるよう心掛けている。今後さらに、職員間の情報共有を徹底して行っていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	8		朝のミーティングの時間に、職員間で前日の申し送りや、その日の支援内容や、役割の確認を行っている。	
	18	8		支援終了後には、児童の活動記録の記入を行いながら、職員間でミーティングを行い、支援の振り返りを行っている。	
	19	8		日々の記録は必ず行っている。記録を元に職員同士の情報共有も行なっている。	
	20	8		定期的にモニタリングを行い、サービス計画の見直しの是非を皆で判断・検討している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	8		事前に全職員で該当児の状況についてミーティングし、児童発達支援管理責任者が会議出席し、人員に余裕があれば、該当児の支援に精通した職員が参加している。	
	22	8			現在はまだ連携した支援を行っていないが、今後、関係機関との連携を強化していく。
	23		8		対象児がいらない為、現時点では行っていないが、今後必要に応じて対応していく。
	24		8		対象児がいらない為、現時点では行っていないが、今後必要に応じて対応していく。
	25	8		他機関担当者に参加を依頼し、情報共有と相互理解に努めている。	
	26		8	他機関担当者に参加を依頼し、情報共有と相互理解に努めている。	
	27	8			活動の中で児童センターへ出向く際に情報交換を行う事がある。研修等の機会があれば、今後ぜひ参加したいと考えている。
	28	8			児童館での交流はあったが、これまでは園規模での交流会はなかったので今後は体勢を整え、企画していきたい。
	29		8		これまでは機会がなかったので、今後は積極的に参加していきたい。
	30	8		送迎時や保護者の事業所お迎えの時、時間を取って、児童の様子等を話す機会を設けて、共通理解を得て、過程と連携が取れるようにしている。	
	31		8	送迎時等に保護者への個々の助言を行うようにしている。	「ペアトレーニング」に限定すると実施できていないが、保護者支援の観点から、ペアトレも含めて、将来的には親支援を実施できるように検討していく。
	32	8		契約時に必ず書面・口頭での説明を行っている。	
	33	8		きちんと保護者への説明を行い、同意を得ている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		保護者からの相談には、随時対応しており、時には専門家の意見を参考にしながら伝え、必要な助言が適切に出来るよう、さらに職員間での研修強化も検討中である。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8			保護者会はないが、年に2度児童・保護者が集う交流会を行い、顔を合わせる機会を設けている。保護者会に関しては保護者の意見も取り入れながら開催を検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		苦情や意見に対しては、適切な対応を心掛けているが、今後、対応体制の整備について、児童や保護者へ周知し、苦情・意見があった場合は迅速・適切に対応していく。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		・毎月1回「しあわせ駅便り」を発行し、随時インスタを活用している。また、連絡体制等については、その都度、LINEにて保護者に伝えている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8		シュレッダー等を活用し、書類の廃棄を行っている。 ・保存書類は窓から見えないよう、保護シートや施錠での管理を行っている。 ・保護者へのアンケートで同意を得たうえで、ホームページやインスタへ掲載している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		ミニ文書やLINEにて連絡している。 また、手話やジェスチャー、絵カードを活用することもある。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		8		イベント時に地域のお店等に協力してもらい、児童との交流を行う機会は設けているが、招待状等の交流会はできていないので、今後検討していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8		各マニュアルは職員に周知し、資料も保管し、随時閲覧可能としている。今後、保護者への周知徹底にも力を入れていく。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		定期的な避難訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8		契約時に確認しを行っている。保護者からの相談があれば、都度確認及び職員間の情報共有を行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8		現在、エビアレルギーが1名だが以前は医師ではなく保護者の指示で対応していた。今後は必要のある時には対応していく。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		事例集(ファイル式)を常設し、職員間で共有しており、いつでも閲覧できるようにしている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		本社にて研修が定期的に行われ、虐待防止委員会の設置もある。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		8	現在、対象児童はいないが、身体拘束に関する注意事項等のマニュアル化している。今後、身体拘束を必要とする児童が利用する場合は、作成したマニュアルをもとに、実施・対応していくことを全職員に周知徹底している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。